西大巓－西吾妻小屋間登山道周辺植生崩壊調査報告書

高山の原生林を守る会

実施日：2010 年 9 月 5 日（日） 参加者：5名

実施方法：西大巓山頂から西吾妻小屋まで3ブロックに区分し、登山道沿いの植生崩壊状況により分画し、距離と幅を測定した。面積は形状により長方形または三角形として算出した。植生崩壊状況は下記のようにランク区分した。

植生崩壊区分

崩壊ランク	植生崩壊状況
1	部分的植生崩壊あり、植生崩壊した部分は泥炭層は残存
2	部分的植生崩壊あり、植生崩壊した部分は泥炭層も崩壊
3	ほぼ全面的に植生崩壊、泥炭層は残存
4	植生も泥炭層も崩壊し礫が露出
5	登山道の穿掘1：膝付近まで
6	登山道の穿掘2：膝から腰まで
7	登山道の穿掘3：腰から上

部分的　30%以内　全面的　80%以上（30～80%の間はダッシュ付記）

A ブロック　西大巓山頂付近

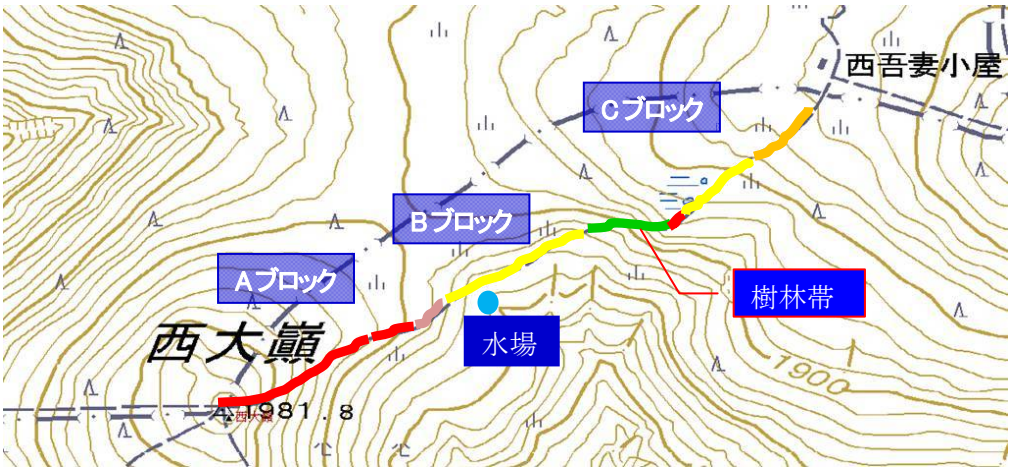
調査山域全景

A ブロック全景

結果

A ブロック：西大巓山頂～水場（植生崩壊領域面積 1795 ㎡）

山頂部はほぼ直径 17.4m の円状に植生が完全に崩壊し、ランク4となっており、三角点付近は母岩が露出している。山頂から水場までの 460m の区間は深刻な植生崩壊と登山道の穿掘が認められる。植生崩壊の最大幅は 7.4m に達している。また、斜面崩壊しガレ場化しているか所も認められる。登山道周辺の植生崩壊は原則、山側に特化している。



西大巓-西吾妻小屋登山道植生崩壊 map

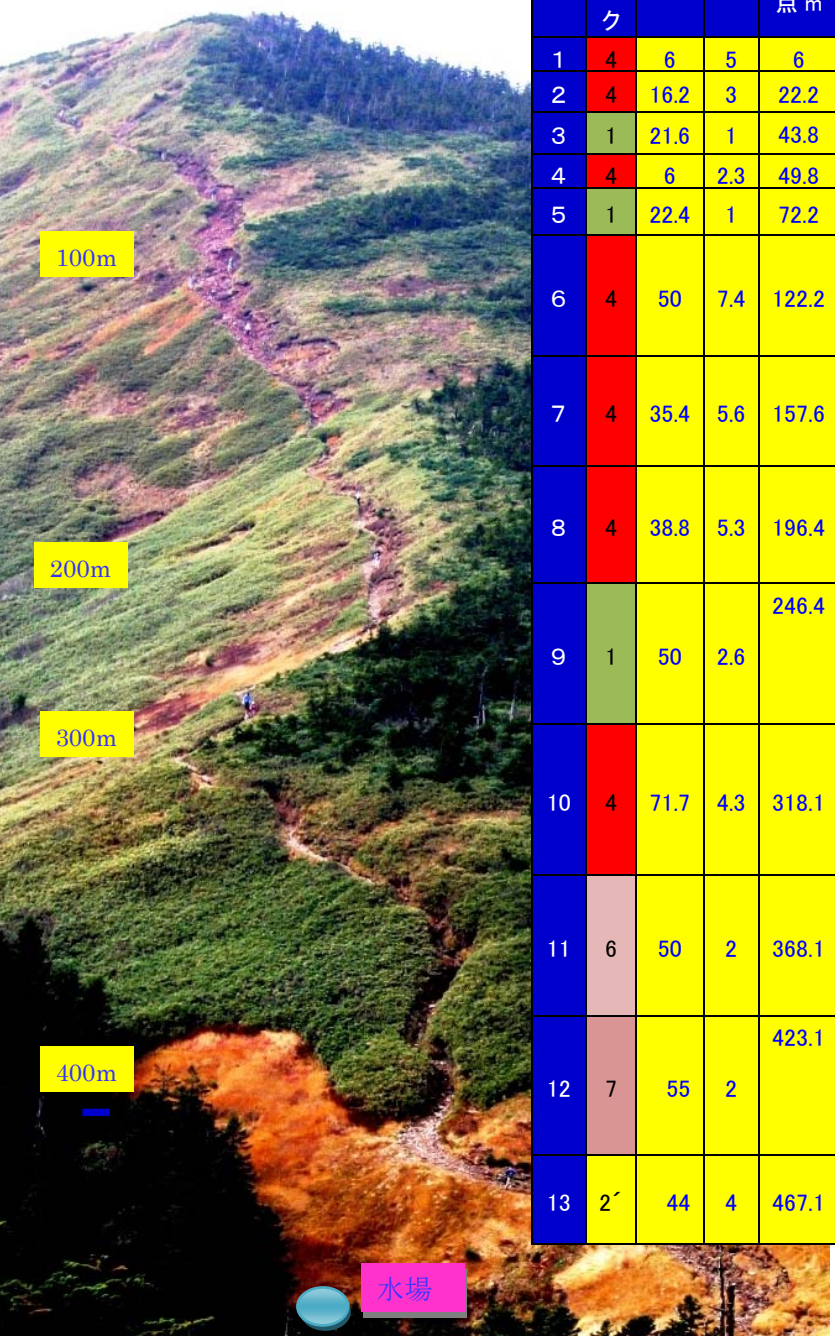
B ブロック：水場～樹林帯

誘導ロープ設置を継続的に 11 年間実施した区間。設置部周辺の植生回復が部分的に認められる。特に水場入口付近で顕著。また植生回復ネットの効果も限定的であるが認められる。

C ブロック：樹林帯～西吾妻小屋間湿地帯（植生崩壊領域面積　西大巓側湿原 801 ㎡、小屋側湿原木道未設置部 415 ㎡）

2か所ある湿原のうち西大巓側の湿原は最も植生崩壊が深刻。西吾妻小屋側の湿原は途中まで木道設置。未設置部分で植生崩壊進行。また、西大巓側の湿原入口部分は山側で斜面崩壊が顕著。

1　A ブロック：西大巓山頂～水場



区画 No	崩壊ランク	距離 m	最大幅 m	西大巓山頂起点 m
1	4	6	5	6
2	4	16.2	3	22.2
3	1	21.6	1	43.8
4	4	6	2.3	49.8
5	1	22.4	1	72.2
6	4	50	7.4	122.2
7	4	35.4	5.6	157.6
8	4	38.8	5.3	196.4
9	1	50	2.6	246.4
10	4	71.7	4.3	318.1
11	6	50	2	368.1
12	7	55	2	423.1
13	2´	44	4	467.1

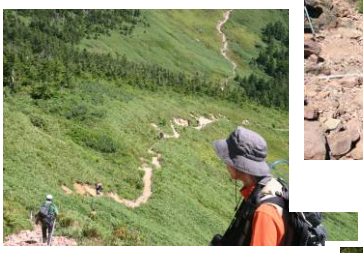
区画 1

区画 4 山側ガレ場
13.2×(1.8×5.4)

区画 6

区画6　34m 地点

区画 7


区画 8

区画 8

区画 9

区画 12　穿掘

区画 11

区画 13　誘導ロープ隣接部

区画 13　水場

２　Ｂブロック：水場～樹林帯

Ｂブロック

誘導ロープ設置状況

植生回復状況（水場入口）

植生回復状況（水場入口）

植生回復状況

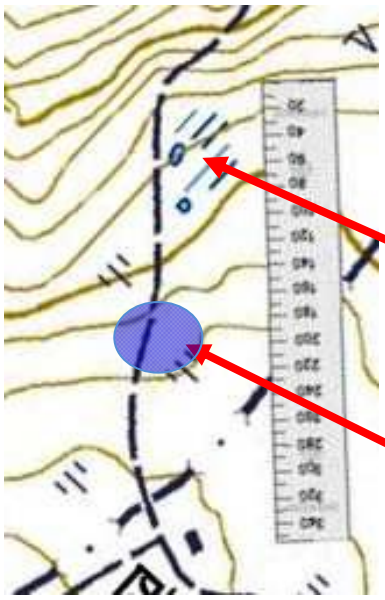
植生回復状況

植生回復ネットの効果

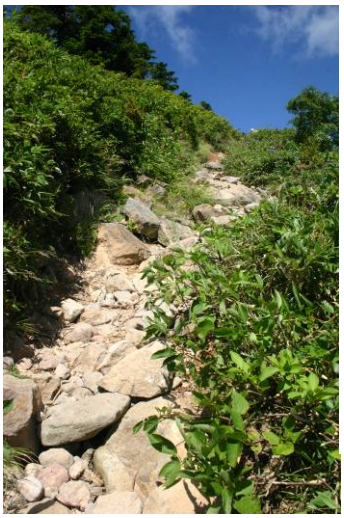
ガンコウランの発芽（ロープとネットの間）

ガンコウラン

３　Ｃブロック:樹林帯～西吾妻小屋間湿地帯



区画 No	崩壊ランク	距離 m	最大幅 m	備考
1	4	35	2	
2	4	24	6.5	斜面崩壊
3	2´	84.3	9.5	西大巓側湿原（崩壊ランク4混入）
樹林帯（階段施工）				
4	3	31	13.4	小屋側湿原 木道未設置部（崩壊ランク4混入）



区画１

区画２

区画２

区画3　湿原出口から

区画3　湿原入口

区画4

区画4:泥炭層は 25～28cm

区画4:表層は 13cm 程度